

連文

R E N B U N



連文会報100号に思う

新年のごあいさつ・心機一転の年

平成27年度 久留米市表彰

【○日誌○報告○report

邪馬台国全国大会 in 福岡

筑後・詩の集い

短歌部「歌評会」

第62回 桃青忌俳句大会

第45回 連文会員美術展

第35回 連文会員華道展

第69回 久留米茶道連合会大茶会

久留米連合文化会

連文会報100号

連文会報100号に想う

「もつと原稿を！」

元編集責任者 吉原 政隆(学芸部長)

2号(昭和50年7月発行)
表紙カット(浦園繁)



連文会報は昭和50(1975)年3月に創刊されました。その発刊を祝って寄せられた、当時の近見敏之・久留米市長の文中に「…会員三百五十名という大世帯になった現在…」の文言があり、はしくもまだ発展途上にあった連文の姿が浮かび上がってきます。また創刊当初の会報には、「新しい久留米市立図書館の構想」(杉本寿恵男先生)、「緑の追想 久留米の文化活動について」(丸山豊先生)の連載があり、『総合誌』といった趣さえ見せています。

このように充実した内容でスタートした会報は、3月、7月、11月の年3回発行を原則として号を重ねていきますが、実はその後の編集者たちをも悩ませ続ける問題を創刊時から抱えていたのです。第1号および第2号の「編集後記」によりまずと、会報の発刊が決まったのは

昭和49年7月の総会でのことで、その時点で検討・決定された編集方針の大綱は、連文三十二部の年度内行事を主要だけでなく網羅しようという点にありました。しかし実際にその作業に入りますと、「…何回もお願いし、催促したにもかかわらず、原稿・資料を頂戴出来ずに…」と、編集責任者の南熊太さんを大いに嘆かせる結果になっていたのです。

原稿あるいは資料を提出して頂けないことのもつとも大きな理由は、「報告すべきほどのことがない……例年と同じ趣向でなにも変わっていないから……」といったものでした。そこには会報の役割(機能)について一種の誤解があるように思われます。情報の発信・受信という一方的な流れで成立している新聞・雑誌等に対して、会報は組織内の回覧性が強い分だけ、情報の交換交

信……つまりコミュニケーションの場を形成し易い媒体だと言えるでしょう。

ではコミュニケーションの働きとはどのようなものでしょう。……ある講座での鶴見俊輔さんのお話しのメモから引いてみます。

《コミュニケーションって、AからBへ、BからAへ伝達することではないんです。AがBへ伝えたことをBが受け止めて、はてと考え、考え込み、考え直し、それをAに返す。するとAは、はてと考え、考え深め、なぜなんだろうと新たな疑問にぶつかり、それをBに投げ返す。問われたBは思いついた新しい考えをAへ……Aはまた別の新しい考えをBへ……と、それぞれが紆余曲折を経て、いつの間にかAはAに、BはBに変わる。変わるということがコミュニケーションの大切なところですね。》

ともあれ鶴見さんの説明に従ってみましょう。まずは「報告すべきほどのことがない」状況について検証し、その結果を会報で伝えれば、ほかの部の活動の活性化、多様化にもつながることもありましょう。「趣向の要・不要論」が新しい発想の呼び水となることもありましょう。ある意味、連文会報は「他山の石」「反面教師」の宝庫なのかも知れません。

「もつと原稿を！」……一時期、編集責任者を務めた者の心からの願いです。



74号(平成17年1月発行)



創刊(昭和50年3月発行)



心機一転の年

会長 木村 清吾



明けましておめでとうございます。
 今年もシティプラザが4月27日にオープンします。連文も5月29日にブラザ久留米座で「久留米短歌大会」を、6月26日にグランドホールで「緑の追想」を、久留米市総合美術展と美術文芸コラボ展を10月4日からプラザ展示室で開催予定にしています。

シティプラザが今後の連文の主な活動拠点になってくると思います。また、今年も連文事務所が移転になります。移転先が決まりましたら理事会を開いて承認を受けたいと思います。

それからジュニア川柳大会を拡大した形でジュニアの詩・俳句・短歌・川柳を公募し、11月6日にプラザCボックスで表彰式を行うことにしています。このジュニア文芸大会は連文として継続していきたいと思っています。

5月の総会では規約改正を1件お願いしたいと思っています。連文の財源が年々先細りになってきています。そこで連文の個別事業にスポンサー企業をつけて、連文事業を応援していただき、連文もそ

の企業を、文化を通して支援していきたいと思っています。このことは時間がかかると思いますが、連文が魅力ある事業を提案していけば道は開けると 생각합니다。

今年もシティプラザのオープン、連文事務所の移転等があり、連文にとって心機一転の年になります。

今年が会員の皆様にとって幸せな年になりますよう祈念致します。

第52回久留米短歌大会

題「旅」空又は自由

受付／3月1日(火)～31日(木) 作品募集

日時／5月29日(日)久留米シティプラザ久留米座

◎「箏と和歌の調べ」春の曲古今和歌集より 岩村雅榮美姫

◎講演「歌をたのしむ」 小島ゆかり

東日本大震災復興支援事業

緑の追想／丸山豊の追想記より (齋藤豊治演出)

日時／6月26日(日)久留米シティプラザグランドホール

第一部「緑の追想」

丸山豊先生追想記の舞台劇

第二部「明日へ」

東北復興を願う交流バレー・

謡曲・詩吟・日舞・児童合唱

新人、中堅の芸術家、子どもたちが出演します。

◎ロビー／華道展示・呈茶

平成27年度

久留米市表彰

平成27年11月3日(文化の日)と1月13日に市の表彰式が行われました。

連文会員で受賞された皆さんをご紹介します。

久留米市功労者

華道部 山下京子



20歳より草月流(華道)に入門。60年以上にわたり華道家として精進されています。草月流福岡県プロッ

ク長、帝国華道院筑後支部代表、西日本華道連盟理事、連文副会長などを歴任。いけ花を通して若い人の育成と地域文化の発展に顕著な貢献が認められ表彰されました。

芸術奨励賞

洋楽部 田本春香



国内の著名なコンクールに挑戦しておられます。市内の小学校や病院のサロンコンサートなどにも出演。数々の演奏会でソリストをつとめられました。今後の活躍が大いに期待できることが評価され表彰をうけました。芸術奨励賞特別賞も受賞されました。



受賞者と連文会員(平成27年11月3日)

久留米市ふるさと市民賞

民謡部 田村孝義



市内で長い歴史を誇る「市民芸能祭」や「久留米芸能大会」に毎年出演し、民謡の魅力や素晴らしさを市民に伝えてこられました。数々の民謡大会で優勝されており民謡歌手として高い実力の持ち主です。後身の育成指導や老人ホーム慰問コンサートも頻繁にされており、民謡を通して郷土の芸術文化の振興に貢献していることが認められ表彰されました。

さよなら、 そして明日へ 1969-2016

「久留米市・筑後地域の芸術振興をつなぐ」

久留米市民会館おもひで公演事業

― 連文「市民会館さよなら公演」開催へ

昭和44年の開館以来、長年市民の文化芸術の発表の場として利用されてきた久留米市民会館も、平成28年7月を持って閉館しその役目を久留米シティプラザに引き継ぎます。

閉館にあたり、久留米市内で優れた芸術文化活動を行って地方文化の発展に寄与することを目的とした久留米連合文化会の会員の方々に、47年間文化芸術の拠点として利用して頂いた市民会館で、最後の公演を開催する事で市民の方々と共に当施設での思い出を作って頂くために、久留米市民会館の指定管理者である㈱西日本企画サービスとの共催で、連文「市民会館さよなら公演」を開催する事となりました。

この公演は、文化・芸術の拠点が市民会館から久留米シティプラザへ移行するための節目の公演となり更なる文化・芸術活動の振興や久留米シティプラザ利用促進にもつながっていくための事業です。

公演は、舞台芸術をはじめ、絵画や書道、生花などの展示なども予定してお



久留米市民会館 昭和44年当時

り、終日楽しめる公演となっていますので沢山の皆様のご来場をお待ちしています。
(同実行委員会・権藤 元二郎)

開催日 平成28年3月12日(土)～13日(日)
会場 久留米市民会館全館
開場 10時(展示ブース)
開演 12時(舞台芸術公演)

●小ホール ジュニア青木繁展
3月8日(火)～13日(日)

久留米シティプラザ ― 平成28年4月オープン

2016年4月27日にオープンする久留米シティプラザでは、現在、開館に向けた準備が進んでいます。昨年10月からは、ザ・グランドホール、久留米座、Cボックスなど発表の場としてご使用いただける施設や、和室、展示室、スタジオなど普段の文化活動でご利用いただける施設の施設使用受付を開始しました。また、開館を記念し、年度をとおして行うオープニング企画は、市民の皆さまに

よる公募企画「市民のための市民によるオープニングシリーズ」、ズービン・メータ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、シーナ&ロケッツ、竹下景子主演の朗読劇など、多彩なラインアップでお届けします。久留米連合文化会の皆さまをはじめ、多くの市民の皆さまと久留米シティプラザの誕生を祝う素晴らしい機会となることを期待しています。

(久留米シティプラザ・村上千尋)



ザ・グランドホールパース図



久留米座パース図

久留米市・合肥市 好都市締結35周年記念事業

昨年の10月27日から30日までの日程で、中国の合肥市で、友好都市締結35周年の記念事業が開催されました。

久留米市からは公式訪問団のほか、文化交流訪問団、市民訪問団が派遣され、連合文化会からは木村清吾会長はじめ、文化交流訪問団の一員として、茶道、書道部に所属する会員が参加しました。

文化交流事業は28日、治安の問題もあり、合肥学院(大学)構内の体育館で、合肥市と久留米市相互の文化交流を行いました。合肥市からは、書道、切り絵、焼き絵が、久留米市からは、茶道(野点)、着付け(久留米縫)、書道(絵手紙)、折り紙が参加しました。



茶道部

茶道部は、草場宗玲理事、田中宗俊理事、井上仙雅部長、岡宗幸副部長が参加しました。

茶道部の野点は、和親棚を使った立礼で行いました。大学に日本語学科があり、多くの学生さんが集まり、3時からの開会式が終わってすぐに始めた茶会は、5時の閉会まで、学生さんが中心でしたが、途切れることなく茶席に入ってお茶を飲んで、楽しんでいただきました。

久留米市・合肥市好都市締結35周年記念事業

文化交流訪問団として

茶道・書道部に所属する会員が参加

書道部

今回、私達は、はがき絵の指導をさせて頂きました。はがき絵を描くことが初めての中国の方達に関心を持って頂ける様にと描く物も「竹林にいるパンダ」「紅葉した秋の風景」「秋桜とパンダ」「月夜の猫」とわかりやすい物にしました。まず、何をするのかどんなものかを伝える為90cm×90cmのパネルに描いて沢山の方に見える様にして、静かな曲をかけ雰囲気づくりに配慮し実演しました。前日、バスの中で見た合肥市のビルの間の



また、お茶の体験コーナーにも多くの学生さんが参加、お茶碗を洗ったり、お抹茶を入れ、茶筌でお茶を点てたりで、にぎやかな交流ができました。終る頃には茶席のお茶が間に合わず、学生さんにお手伝いしていただきました。体験コーナー即水屋となり、学生さんが点てたお茶を茶席に運ぶ有様で、2時間ほどの交流でしたが、有意義で、楽しい時間を過ごさせていただきました。あまりにも忙しく、ほかのブースを見る暇もなくおわってしまいました。200名を超える

える参加者で、久留米市から持参したお菓子もお抹茶もすべて使い切りました。

(茶道部・田中宗俊)



美しい月の風景を描き、その時の思いを言葉にして添え書きしました。拍手と共に「きれい」「すごい」の声が聴かれ大変喜んで頂けました。その後はがきに描く物と似た2点「竹林のパンダ」「秋桜と子ども達」を実演しはがき指導へと導きました。限られた時間の中での指導ですので希望者全員に体験させてあげられなかったことが大変残念でした。しかし、体験された方々は本当に楽しそうに熱心に取り組んでいらつしやった姿が印象的でした。言葉も「ありがとう」「かんしゃ感謝」と丁寧に書かれ心のこもったはがき絵「心だより」ができました。

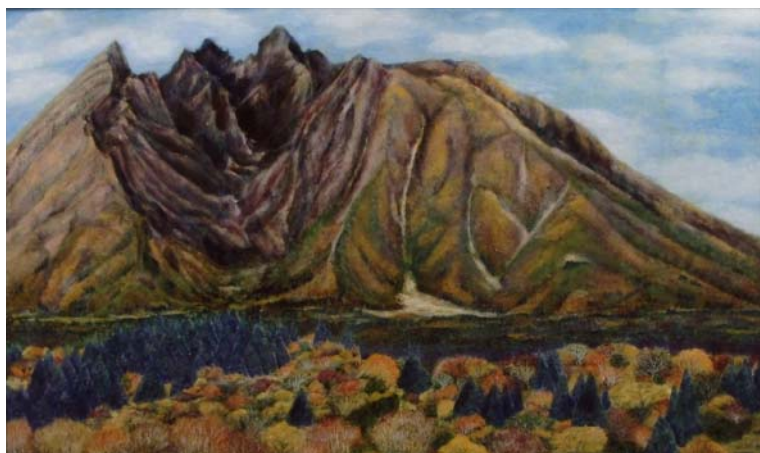
(書道部・松崎睦生 妃良)

第45回連文会員美術展 会員賞

会期 [1期] 10月7日(水)～11日(日) 彫刻・書道・デザイン

[2期] 10月14日(水)～18日(日) 洋画・工芸

[3期] 10月21日(水)～25日(日) 日本画・水墨画・写真



日本画「阿蘇深秋」城戸 千代子 (筑後市)



水墨画「高原の朝」松石 道光 (柳川市)



洋画「桌上的静物」馬場 節子 (久留米市)



洋画「青い背景の静物」城後 幸子 (久留米市)



写真「流砂の輝き」加藤 克己 (久留米市)



写真「満面の笑み」井上 利明 (広川町)



工芸「真夜中のカルテット」中園 唯 (久留米市)



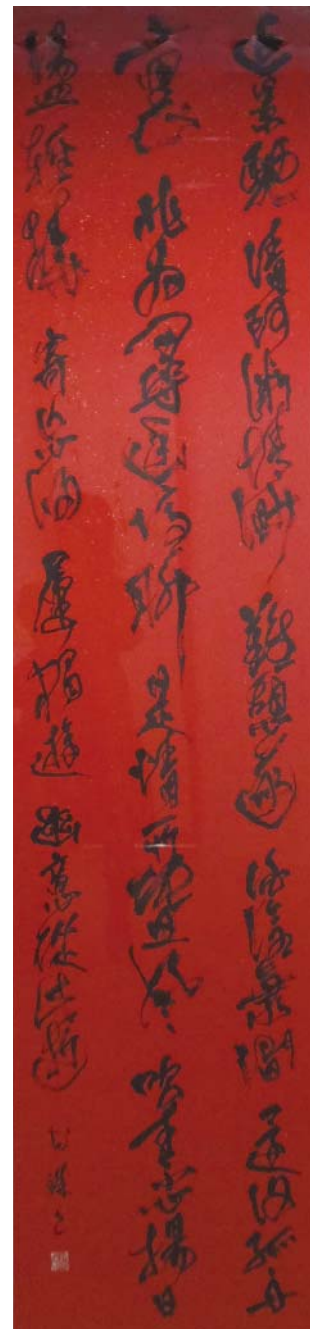
工芸「トランプびっこ」山下 保子 (久留米市)



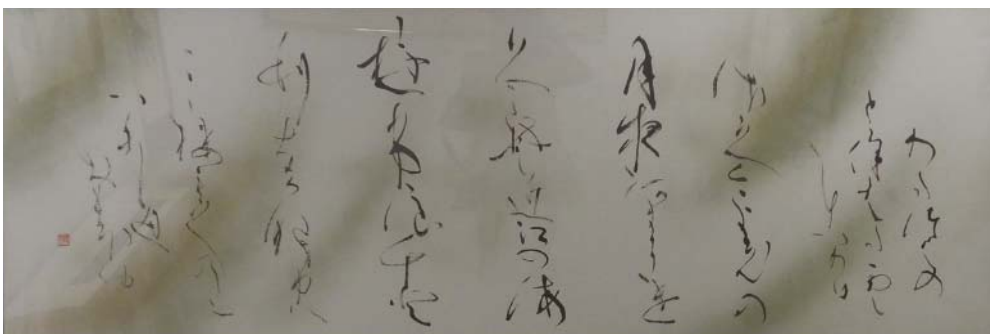
デザイン「紅碧」吉本 暢子 (久留米市)



彫刻「揺れる航海士」津留 初仁元 (久留米市)



書道「姜宸英詩」
伊藤 花珠 (久留米市)



書道「わたつみの」
伊藤 敬子 (久留米市)

邪馬台国全国大会in福岡

「久留米から邪馬台国がみえる 盛況だった全国シンポ」

卑弥呼がいた邪馬台国はどこにあったのか。決着がつかない古代の謎を求めて、全国のファンが久留米に集まって11月29日、石橋文化センター共同ホールでシンポジウムを開いた。全国邪馬台国協議会の主催で、テーマは「久留米から邪馬台国がみえる」。会場はほぼ満員の盛況で、講師らの九州説有力の話に沸いた。この催しには久留米連合文化会も全面協力、多くの会員も参加した。

講師は、久留米市文化財保護課長補佐の白木守さん、ミスター吉野ヶ里の高島忠平さん、奈良県立橿原考古学研究所の関川尚功さん、季刊「邪馬台国」編集長の安本美典さんの四氏。

白木さんは卑弥呼の時代の久留米周辺の模様を古墳のデータをもとにわかりやすく紹介。高島さんは、卑弥呼の時代には日本列島あるいは西日本を統一した政権はなく、邪馬台国は九州北部の部族連合の盟主であり、ほかの地域の勢

力と抗争をつづけ六世紀後半に主導権を握ったヤマトが古代国家を成立させた」と述べた。

関川さんは畿内説の根拠にもなっている纏向、箸墓古墳などの研究者だが、奈良の古墳には鉄器類の出土が少なく、大陸との交流をうかがわせるものはない、と畿内説に疑問を投げかけ注目を浴びた。安本さんは、平塚川添遺跡を中心にした甘木朝倉地区を邪馬台国の有力候補地とされているが、この日は卑弥呼の墓について述べ、出土品などから糸島の平原遺跡が有力との見解を披露された。

「それにしてもよく入ったな」が参加者の一致した意見。講師の先生からも「久留米は大したもんだ」とお褒め言葉。これも連文のみなさんの協力のたまもので、世話方一同、感謝、感謝でした。

(学芸部・橋爪正道)



奈良県立橿原考古学研究所の関川尚功さん



季刊「邪馬台国」編集長の安本美典さん

第62回 桃青忌俳句大会

11月23日(祝)、御井校区コミュニケーションセンターにて開催いたしました。

選者3名の特選句(◎)と佳作句は次の通りです。

小川 順子 選

◎詠むことは学ぶことなり芭蕉の忌

大坪 久美枝

小鳥来る忌日の空をさみしめず

黒田 充女

落葉踏み心に栞る俳祖の忌

黒田 充女

谷川 章子 選

◎芭蕉忌を重ね来しこの歳月よ

黒田 充女

吟行の落葉ばかりを踏む一と日

野口 桂子

草鞋しかない旅思ふ芭蕉の忌

野口 桂子

黒田 充女 選

◎数十人集ひしは過去翁の忌

吉田 いずみ

時雨忌や俳句一途に五十年

矢野 愛子

会場で待つも一役桃青忌

東 由紀子

(俳句部・黒田充女)

筑後・詩の集い

丸山豊生誕百年祭

「詩人 丸山豊の百年を読む・知る・語る」

11月29日(日)、午後1時半より、久留米市立中央図書館の会議室に於いて福岡県詩人会と共催による詩の集いを開催した。参加者は25名であった。

司会は詩人会の藤戸高光氏。第一部として、詩人会会員の吉貝甚蔵氏による、丸山豊の作品論であった。氏は講演に先立ち、丸山豊の全作品から100編余りを自選して製本、1時間以上に渡りとても熱の入った作品論を展開された。初期の代表作「はくちょう」の三つ目の(冷や

やかな視点についての検証から始まり、全作品を大きく4つに分類された。「白鳥」を代表する詩集「はくちょう」のモダニズム、現代詩の傑作とされる「天唱」が収められた鎮魂歌である詩集「地下水」の戦後詩。詩集「愛についてのデッサン」の過渡期、そして、詩集「球根」を代表する現代詩。視聴者は、哲学的な詩の分析に、聞き終えて言葉を失う程であった。

第2部は、丸山豊さんの思い出と題して、河北さん、上村さん、田中さん(とも

に詩人会)による若い時代の話に和氣あいあいとした雰囲気になった。最後に山本源太さんから丸山豊の魅力(人間愛)について語っていただいた。丸山豊さんは本当に、誰にでも、温かく迎え多くの詩人を育てられたと聞きますが、没後26年以上たっても、丸山豊さんの思い出を語る時、皆さん、笑顔になります。僅かな断片的な思い出も全く色褪せていない。それが詩人丸山豊さんであると思いたした。

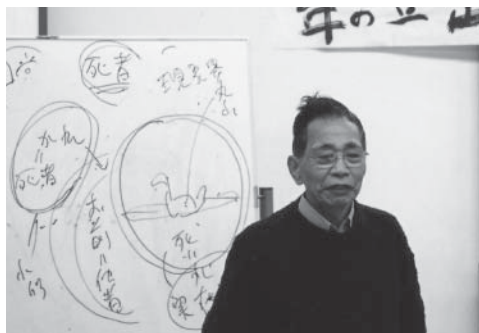
(詩部・緒方和美)



詩人 丸山豊氏



藤戸高光さん



山本源太さん

西原柳雨生誕150年記念祭



10月4日(日)、久留米出身の古川柳研究家・西原柳雨の功績を顕彰して、講演会と碑前祭を催しました。

まず、市民会館で中村信人氏が「柳雨さんの柳多留」のタイトルで、プロフィールや著作集の紹介がありました。40余年の教職を経て上京後、古川柳研究に没頭し、『川柳吉原志』ほか多数の著書を発行します。その間、新聞・ラジオの選者も務め、川柳の地位向上に努めました。県内外の川柳愛好家、連文会員と一般市民の聴講がありました。

次いで三本松公園の句碑に、献酒・献花・献吟を捧げました。福岡や日田から親族の参加もあり、皆で氏を偲びました。なお、同碑は14年前、全国からの募金で建立。会員の津留誠一氏(彫刻部)のデザインで「覆水を盆へ小さな手で返し」を諸石祥雲氏(書道部)の揮毫で制作したものです。

(川柳部・堤日出緒)

短歌部「歌評会」

7月4日(土)、えーるピア久留米で開催しました。選者に歌評を頂き、出席者からも多くのご意見やご質問など出されました。出詠数27首、出席者22名でした。

大津留敬選

1位 かがよひを日々に増し行く新緑よ
わが身を癒す力与へよ

大津留悦子

2位 ダム放流警報の出し筑後川の
流れに吞まるる中州の草木

白土久美子

3位 大刀洗飛行場跡のポピー園
特攻兵等の霊も愛であむ

宇佐原充子

藤吉宏子選

1位 カラコロとわが下駄の音城崎の
外湯をめぐり旅情なぐさむ

深見洋子

2位 朝採りの淡竹の山と積まるるを
一束買ひぬ道の駅にて

名島ミヤ子

3位 ダム放流警報の出し筑後川の
流れに吞まるる中州の草木

白土久美子

互選

1位 かがよひを日々に増し行く新緑よ
わが身を癒す力与へよ

大津留悦子

2位 朝の茶にとろみをつけて冷やしをり
けふは夫の施設より帰る

本松純子

3位 梅雨じめる二人の居間にあぢさゐの
少なき会話の間をつなぐ

境宏子

3位 麻痺の痛みかこてる妻に月の夜の
比翼の鶴となる夢語る

大津留直

(短歌部・堀江英毅)

連文デザイン部展

「6 color」

11月7日(土)から15日(日)まで、昨年に引き続き大川市立清力美術館(館長は理事の龍田美子)にてデザイン部展を開催。今回のテーマは「6 color」。全版作品



小作品、イラスト、イラスト、パツケージデザイン、立体オブジェなど6人の個性あふれる作品30点を披露しました。来場者は8日間で147名でした。(デザイン部・市丸美波子)

第43回 連文書作家展

11月3日(祝)〜8日(日)、第43回書作家展が開催されました。来場者は1400名を超え、親しみやすい書をテーマに多様な作品が会場を彩り、来場者を楽しませました。



(書道部・成清紅葩)

日本舞踊勉強会

9月27日(日)、久留米市民会館での最後の勉強会を開催しました。

先人達も含め、切磋琢磨して芸の向上はかる為、日々精進した事など、感慨深い思いも含め、また感謝の意を込めての勉強会でした。

今回も前回に引き続き、スペシャルオリンピックス日本・福岡活動を支援させていただき、また、久留米の情感溢れる「久留米小唄」を皆様と踊る楽しいひとときも過ぎました。

(日本舞踊部・花柳津祢里)



荘島小学校訪問演奏会

10月28日(水)、荘島小学校へ訪問演奏会に行ってきました。

メンバーは歌、田本春香。ピアノ、長谷川ゆか。オーボエ、稲吉恵利奈です。

クラシック音楽やディズニー音楽など14曲を演奏。校歌や「アナと雪の女王」の曲

を生徒さんたちと一緒に歌って楽しい時間を過ごしました。

(洋楽部・稲吉恵利奈)



スタジオDDダンスコンサート vol. VI

11月14日(土) 城島インガットホールにて、2年に1度の勉強会を開催しました。ジャズ・タツ・バレエ・ヒップホップ、異なるジャンルのダンスで、会場いっぱいのお客様と感動を分かち合うことが出来ました。

来年は、スタジオDD25周年として、大きな発表会「ダンス・ギャザリング」を開催します。これからも、真摯にダンスに向き合い、精進していきたいと思います。

(洋舞部・城戸玲子)



第35回 連文会員華道展

9月2日(水)～9月7日(月)、久留米岩田屋新館4Fで開催しました。

約4千人の入場者にご覧いただき、3回目となる、「体験教室」では、年齢問わず参加いただき、体験後には満足げなお顔で、お花を持ち帰られる様子を見るにつけ、会員の私どもも笑顔になり、少しでもお花に興味をもって頂けたことに嬉しく思いました。

会場の風を、おひとりでも多くの方々に実感して下さることを願います。

(華道部・田中千舟)



第69回 久留米茶道連合会大茶会

(法要茶会)

11月1日(日)、梅林禅寺にて物故会員の施餓鬼法要をとり行い、続いて各流それぞれの茶席で参列者に一椀を呈しました。稀少になった本格的な草庵での濃茶席に全員参加出来るようになって2年目。今年も500名を超える参加者があり、戦後の久留米茶道会を支え続けて下さった先人の御霊に感謝の思い込めた茶会でした。

(茶道部・草場宗玲)



第62回 裏千家淡交会久留米支部 歳末助け合い茶会

12月6日(日)、恒例の歳末助け合い茶会をくるめりあ六ツ門にて開催しました。

師走とは思えぬ暖かさで、お子さん連れのイクメン、パの姿も多く、毎席50人のお客様で賑わいました。気軽に楽しめる

茶会として薄茶二席を設け、待合には、飾り付けなど少々早いクリスマス気分も味わって頂き、なんとなく気忙しい一日にほっとした一時を過ごされた事と思います。

(茶道部・北島宗美)

盛況に終えた人形劇定期公演

12月11日(金)～13日(日)、木下楽器店すわの町店イベントホールにて、舞台アートの工房・劇列車第17回定期公演「みなしごサキと子天狗こたろう」(作・演出 かまほりしげる)を無事終えました。

定期公演で約200名のお客様に観て



いただいた本作品は、今後、2016年巡回公演作品となり、子どもそのばへ届けられます。子どもたちの出会いが楽しみです。

(映画演劇部・釜堀 茂)

第19回 下水道フェア呈茶席

9月23日(水)、下水道フェアが安武町の南部浄化センターで開催されました。連文茶道部として12時30分より15時まで呈茶席を設けました。盛り沢山のイベントの中お子様連れの方々が時間前から待つて下さるような状態で終日賑わいました。

地球の事やみんなのことを考えながら水を大切にする気持ちを広めるフェアとの事、広い意味で茶道の「おもてなし」の心にも通じる事と勉強させて頂きました。今回は裏千家淡交会が担当いたしました。

(茶道部・北島宗美)

第18回 フジタバレエ研究研究生発表会

第32回 バレエリサیتال「コッペリア」

フジタバレエ研究所は8月9日(日)に久留米市民会館において、昼の部は「研究生発表会」、夜の部では「コッペリア」全幕を上演しました。

研究生発表会では、一年間の学びの発表の場と、五ヶ年以上バレエと向き合っている研究生がソロの踊りを披露しました。子ども達が学業と共に稽古を継続している姿は美しく、またそのことを通して自信につながるものと考えます。

「コッペリア」では、2歳の幼児科から大学生、そしてプロのダンサーになった卒業生、更にはゲストのダンサーと共に力を合わせ、ひとつの作品を創り上げました。

(洋舞部・藤田美知子)



【○日誌○報告】report RENBUN CALENDAR

平成27年 8月～12月

第44回水の祭典久留米まつりに参加(総合文化部)	8/4(月)・明治通りおまつり広場
アフリカの印象(中尾精后画業50周年油彩画回顧展)	8/6(木)・12(水)・石橋美術館1Fギャラリ
フジタバレエ研究所第18回研究生発表会	8/9(日)・久留米市民会館大ホール
第32回バレエリサイタル「コッペリア」	9/2(水)・7(月)・岩田屋久留米店
第35回連文会員華道展	9/12(土)・久留米市民会館小ホール
久留米ほとめき倶楽部中間発表	9/12(土)・13(日)・大濠公園日本庭園
大日本茶道学会福岡地区研修会	9/17(水)・21(日)・石橋美術館1Fギャラリ
創元会第35回福岡支部展	9/22(火)・27(日)・石橋美術館1Fギャラリ
15回西部水彩画展	9/23(祝)・南部浄化センター
第19回下水道フェア呈茶(裏千家淡交会)	9/27(日)・日吉神社
裏千家淡交会久留米支部日吉神社観月茶会	9/27(日)・久留米市民会館大ホール
日舞勉強会(スペシャルオリンピックスチャリティ)	10/4(日)・13(時)・石橋文化センター共同ホール
第51回久留米三曲協会定期演奏会	10/4(日)・久留米市民会館第一会議室
西原柳雨生誕150年記念講演会	10/4(日)・城島インガットホール
北筑後地区芸能フェスティバル	10/7(水)・25(日)・石橋美術館1Fギャラリ
第64回久留米市総合美術展	10/7(水)・25(日)・石橋美術館1Fギャラリ
第45回連文会員美術展	10/14(水)・18(日)・えーるピア久留米市民ギャラリー
木村フォトセミナー写真展2015	10/15(木)・久留米市民会館小ホール
平成27年度おさらい会(一川会)	10/28(水)・荘島小学校
小学校訪問演奏会	11/1(日)・石橋文化センター共同ホール
久留米吟詠道連盟第56回吟剣詩舞道大会	11/1(日)・梅林寺
第69回久留米茶道連合会法要大茶会	11/3(祝)・8(日)・石橋美術館1Fギャラリ
第43回書作家展(連文書道部)	11/7(土)・15(日)・大川市立清力美術館
連文デザイン部展	11/10(火)・15(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
第27回南祥会書作家展	11/14(土)・15(日)・えーるピア久留米
水車小屋だより	11/14(土)・城島インガットホール
スタジオDDDダンスコンサートvol.VI	11/18(水)・23(祝)・石橋美術館1Fギャラリ
第67回西部示現会展	11/23(祝)・御井校区コミュニティセンター
第62回桃青忌俳句大会	11/27(金)・30(月)・ギャラリー心だより
松崎睦生「書のこころ」展	11/29(日)・石橋文化センター共同ホール
邪馬台国全国大会in福岡	11/29(日)・久留米市立中央図書館会議室
筑後・詩の集い	12/6(日)・くるめりあ六ツ門6階
裏千家淡交会久留米支部第62回歳末助け合い茶会	12/6(日)・石橋文化ホール
第22回賢順記念くくるめ全国筆曲祭	通 年・青木繁旧居
青木繁旧居生け花展示(草月流万年青会中野松芳社中)	通 年・JR久留米駅構内
JR久留米駅生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流/毎週交代)	

【○芸術散策○行事のお知らせ】information RENBUN CALENDAR

平成28年 1月～7月

文推協ニューイヤークンサート	1/11(祝)・萃香園
連文役員新年会	1/16(土)・ホテルマリタール創世
心象会展	1/26(火)・31(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
陸翔会楽しい書画展「四季のおもてなし」	2/17(水)・22(月)・岩田屋久留米店
久留米市民会館おもひで・さよなら公演	3/8(火)・13(日)・久留米市民会館
第14回ジュニア青木繁展(絵画・書道同時開催)	3/8(火)・13(日)・久留米市民会館
青木繁旧居華道展(草月流万年青会中野松芳社中)	3/15(火)・20(日)・青木繁旧居
第63回けしけし祭	3/20(日)・かぶと山
茶を楽しむ会(江戸千家久留米不白会)	3/21(祝)・坂本繁二郎生家
くくるめ市民劇団ほとめき倶楽部公演	3/26(土)・27(日)・久留米市民会館
合同歌集「久留米歌壇」第31集	4/1(金)・発行
岳翠会創立60周年記念吟道大会	4/17(土)・ホテルニュープラザ
久留米文学第62号	5/1(日)・発行
久留米シティプラザ茶会	5/3(祝)・8(日)・久留米シティプラザ茶室
久留米光画会110周年記念写真展	5/25(水)・29(日)・石橋美術館1Fギャラリ
平成28年度連文定期総会・祝賀会	5/28(土)・ホテルマリタール創世
第52回久留米短歌大会	5/29(日)・久留米シティプラザ久留米座
緑の追想	6/26(日)・久留米シティプラザグランドホール
青木繁旧居呈茶(江戸千家久留米不白会)	7/10(日)・青木繁旧居
諸社様雲退職記念書作家展	7/26(火)・31(日)・久留米シティプラザ展示室
<p>連文会員率いる写真クラブ 久留米光画会110周年記念写真展 連文写真部会員指導によるクラブは、 木村フォトセミナー、緑人会(久留米)、 写画八媛(八女)、筑後フォトクラブ、 遊朝倉、久留米光画会の6団体がある。 そして、久留米光画会は約7割の連文会 員の構成による。光画会の写真展は5年 を周期に開催されるもので、110周年 を迎えた今年、5月開催(会場：石橋美 術館1階ギャラリ)を目前に準備が進 められている。当会は昨年末、安岡・坂 田の両氏が全日本写真連盟主催・国際 写真サロン入選という快挙を果たし、展 覧会に向けた会員相互の士気の高まり を見せている。(写真部・中村金次)</p>	
<p>改組新第2回(平成27年度)入賞 江口登(洋画)・本村浩章(洋画)・井上泰三(書) 第71回福岡県美術展覧会入賞 うきは市長賞・高尾八重子(工芸) 県文化団体連合会賞・三田ウメ代(工芸) 岩田屋三越賞・加藤克己(写真) 奨励賞・豊福利枝子(書道)・市丸美波子(デザイン)</p>	
<p>計報(平成27年7月～12月) 謹んでご冥福をお祈り致します。 中村雅楽美美さん(邦楽部) 平成27年8月17日 石橋澄子さん(洋画部) 平成27年9月27日 中川霊仙さん(茶道部) 平成27年11月6日</p>	